

ジゴマ (1911)

ZIGOMAR

メディア 映画

ジャンル ミステリー

製作国 フランス

色彩 B&W

初公開日 1911/11/

公開情報 劇場公開

【解説】

やがてアメリカで盛んになる連続活劇の嚆矢とされる、フランス産探偵劇の大古典である。当時としては珍しい一時間に及ぶ長篇で、好評につき作られた二本の続編が一緒になった、いわば総集編が現在日本で見られるバージョン。探偵ポーランの事務所。怪盗ジゴマ団の被害報告を読んでいた彼は慌てて外へ飛び出す。そこへ近づき机をあさる掃除夫がパッと変装を解くと、これがジゴマその人（ここまでがワンカットで思わず引きずり込まれる）。とにかく変幻自在のジゴマ。パリの街も堂々と姿を変えて歩く。アルプス山麓へ向かう登山客で賑わう列車でホールドアップ。かと思えばその線路を爆破して追っ手をまいたり、ポーランが湖をモーター・ボートで急ぐと飛行機で爆撃。もう悪事は何でもござれ。次に、ある銀行を襲った彼らをポーランが待ち伏せ。金庫室を水攻めにして捕らえるが、ジゴマはまたも彼に重傷を負わせ逃亡。そこで、親友ニック・カーター代わっての登場となる。連中の賭博場に踏み込むと、即座に音楽会場に変わる仕掛けに惑わされ、今度も取り逃がす。更に、富豪夫人を誘拐した一団を追って、逆に捕らえられる。が、彼らの女スパイ、ラ・ロザリンに解放され、彼女はつかまりリンチを受ける。ここで、急に場面が飛ぶ。“カーター死す”の報を祝う彼らの前にその当人が現われ、一団を一網打尽に。ジゴマも“最早これまで”と毒をあおって自決する。なにせ古い映画で話のまとまりはないが、場面的には現代の映画と大差ない表現に達している所もある。第一、犯罪のスケールの大きいのがいい。

【クレジット】

監督 ヴィクトラン・ジャッセ Victorin Jasset

出演 アルキエール

ジョゼット・アンドリオ

オルガ・デミドフ

シャルル・クラウス

リアベル

カミーユ・バルドウ

ジルベール・タリウ

ポール・ザイデ